

平成25年全国町村長大会 決議案 提案理由説明（経済農林委員会）

私からは、2点についてご説明申し上げます。

まず、最初に、ある農家のお母さんのつぶやきをご紹介します。

つぶやきはこうです。

「おれたちは、都会の人に食料がいるからと、米も、野菜も、キノコもつくった。魚もほしいというから、漁師は魚を捕って送った。おまけに電気も届けてほしいと頼まれ、発電所も作った。なのに犠牲になったのは、やっぱりおれたちだった。悲しい。」と語りました。心に痛い言葉です。

私たち、農山漁村に暮らす者は「空は拝み、風を読み、自然という脅威と付き合いながら、多様で個性的な風土を育み、文化をつなぎ、美しい山河や田畑を守りながら、生業を続けてまいりました。

このことは、国民の命を支え、国を富ませてきた源であったと理解しています。

そして、今、私たちは、都市や大都市に従う農山漁村になってはなりません。企業や大企業に吸い取られる農林漁業にしてもいけません。また反面、自らを省みること、改良、変革を怠る農山漁村になってもいけません。

さらに、「98.5：1.5」（注：GDPにおける他産業と第1次産業の比）などといった構図で論じられるべきものではないと考えております。

そこで、大変平凡な文章となっておりますが、農山漁村の持続、安定的な生活の確保と農林漁業の振興を全国民に訴えたく、決議案へのご賛同をお願いするものであります。

次に2点目は、年内妥結とも報道されているTPP交渉に対する決議案について申し上げます。

いったい何が聖域で、どうすることが国益なのでしょう。何らの説明もなく、「どこかで誰かが決めた」では納得できません。

政府の「聖域を守る」「国益を堅持する」との、国民との約束が、交渉を急ぐあまり、置き去りとならぬよう、政府に強く訴えようとするものであります。

以上、2点の決議案について、その提案理由を申し上げました。何卒、皆様のご賛同を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成25年11月20日
経済農林委員会委員長
福井県池田町長
杉 本 博文